令和７年度　第１回出雲市子ども・子育て会議　会議録
（令和７年８月６日　開催）

開　　会　　１４時００分　　閉　　会　　１６時０７分

出 席 者　　＜委員１５名＞
原　広治委員（会長）、高橋恵美子委員（副会長）
長島和孝委員、刑部周平委員、小嶋翔太委員、高橋　研委員、足立英子委員
上野貴幸委員、飯塚由美委員、内藤まり子委員、布野千枝子委員
原　久子委員、堀江泰誠委員、小林玲子委員、高橋義孝委員
（欠席５名）
川上雅文委員、品川咲穂子委員、渡部　浩委員、金築真志委員
甲山美紀恵委員

＜事務局１３名＞
金本　薫子ども未来部長
高山教代子ども政策課長、園山博之保育幼稚園課長
堀江　都健康増進課主査　ほか

議　　事　　資料に基づき、事務局から説明
（１）令和６年度出雲市子ども・子育て支援事業の実施状況について
（２）今後の市立幼稚園のあり方に関する基本方針について
（３）令和７年度の認可保育所等の定員について
（４）令和７年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について
（５）令和７年度の放課後児童クラブの入会状況等について
（６）こどもの意見の施策反映に係るワーキンググループ設置について

主な質疑

（１）令和６年度出雲市子ども・子育て支援事業の実施状況について

委員　児童クラブについては、右肩上がりで入会希望者が増えており、計画上の量の見込みよりも上振れするのではないかと思っている。現在は運営委員会方式での運営だが、組織的にも脆弱、職員確保も難しく、どのように現場を回していくかという課題がある。
量の見込みあるいは見込み以上に増えるであろう入会希望に対して、どのように受け入れていくのか。また、現在の４８か所が将来的に５３か所に増えるとしているが、ど

のように増やしていくのか。民設なのか公設なのか。希望に添った事業をしていく事業者が出てくるのかという将来的な見込みを含め、市としてどのように対応していくのかもう少し詳しく伺いたい。

事務局　令和６年度にワーキンググループで検討し、支援体制の強化、多様な運営方式の検討について課題を踏まえたうえで検討し、令和７年度から実施することとしているが、人材確保や法人参入の方策を両立させて、入会希望どおり受入ができる体制を整えたい。

法人参入については、参入要件を緩和してさらに参入しやすくし、また、運営しやすくなるように国や県に向けて運営費の増額を要望するなど、取組を強化している。

また、民設児童クラブの法人から、施設整備について現在の補助基準額では不足するという意見をいただいているので、県を通して国に補助基準額の増額を要望している。

人材確保については、夏休み期間中に特に人材が不足する状況について報告いただいているところ、令和７年度の新たな取組として、小学校及び学校給食センターに勤務している方に対して、小学校の長期休業期間中に児童クラブで勤務できないか、小中学校長会を通して声掛けをした結果、何名かの方に児童クラブで勤務してもらうことができた。少しずつではあるが着実に取り組んでいる。

今後、令和９年度を目標として未決定児童を解消し、入会希望者を全員受け入れ、児童クラブが働きやすい職場環境となるように、引き続き、地元の運営委員会と協議しながら取り組んでいきたい。

委員　「量の見込み」という言葉について、物質のような感じがするので、「利用者数の見込み」や「児童数の見込み」という表現でよいのではないかと思うがどうか。

子ども政策課　国と同じ表現を採用しているところ、わかりにくかったり大雑把な印象を与えることが懸念されるため、表現については、それぞれの内容に基づいて検討・修正したい。

委員　産後ケア事業は、子育てしやすい環境には非常に重要であると考えている。実績が非常に上がっており、それだけ困ったり悩んだりしている母親が多いと思われる。

令和６年度の実績 326 回について、どのようなニーズがあるのか宿泊型/訪問型/通所型の内訳と、一人当たりの平均利用回数について伺いたい。

事務局　令和６年度の実績 326 回の内訳は、宿泊３０回、訪問９６回、通所２００回。平均利用回数については、令和５年度、令和６年度ともに 3.8 回である。

令和７年度については、既に申請が７０件を超えており、事業が浸透している状況である。回数については今まで一人５回までであったが、令和７年度から一人７回と国の

基準に合わせて実施しているので、伴って回数が増えていくことが見込まれる。

一方で、医療機関の受入れ体制がなければ利用回数の枠も増えないため、令和６年度において市内産科医院３か所に委託先を増やし、受入体制を強化したので利用可能回数を増やしたところである。

（２）今後の市立幼稚園のあり方に関する基本方針について

委員　子どもの中には大きな園は刺激が大き過ぎて、むしろ小さな集団が過ごしやすい、生活しやすい、成長しやすいという状況があるので、そういったことも配慮してほしい。インクルーシブ教育・保育という考え方で、分けない、包摂・包容するというイメージで進められている中にあって、人数だけではなく、特別な支援が必要な子どもを園の中でどのように支えていくのかもあわせて幼稚園のあり方を検討していただきたい。

事務局　人数はあくまで目安であって、今回協議を進めるために設定したもの。集団教育が必要という考え方がある中で、ご紹介のあったような状況にも配慮しながら、特別支援教室やインクルーシブ教育の充実もあわせて検討していきたい。

委員　認定こども園化については、市立幼稚園のあり方を見ながら各社会福祉法人の保育園において検討していくことになると考えている。

幼稚園児数の減少は、１号認定子どもの人数の話であるが、少子化が進行する中にあって、保育園が２号認定こども、３号認定こどもの受け入れだけでは運営が困難になりつつあるので、認定こども園化していこうという考え方が全国的にも進んできているところである。

出雲市においては、今まで保育園から認定こども園になるという動きはなかったが、認定こども園化していかなければ運営が難しいという地域や社会福祉法人が出てくるのではないかと考えている。

幼保連携型認定こども園ならば幼稚園が関係してくるが、保育所型認定こども園であれば、保育園として１号認定こどもも受け入れできる制度になっており、全国的にもこれがかなり多い状況になってきている。

今回の幼稚園児数の減少は、あくまで自然減によるものであるが、今後、保育所型として社会福祉法人の認定こども園を作りましょうということになれば、保育園の方がいいという保護者も出てくる可能性もあるので、自然減だけではなく、社会福祉法人の考え方によっても、園児数の減少を助長させる可能性もある。

市保育協議会としても、市内５７園に対するアンケートで、これからの法人の運営の仕方、認定こども園化の意向の有無のデータを収集していく考えであり、今後、市と協議しながら検討していくことになるので、よろしくお願いしたい。

事務局　地元としては園児数を増やして幼稚園を維持していきたいという思いもあるが、子どもが減っていく状況の中では現実的には難しい面もある。

本件は幼稚園の基本方針ではあるが、再編等の手法としては、中学校区単位での幼稚園の統合や社会福祉法人の認定こども園化での対応等、幼稚園だけでなく幼児教育施設全体でどうやって行くかという考え方である。

今までは幼稚園は公立、保育所は民間という考え方で、認定こども園化は進んでこなかったが、今後はそういった可能性も含めて協議させていただきたい。

委員　幼稚園での一時預かり事業で、令和５年度から長時間預りを進めてきており、こども園に近づいてきているように思うが、利用者の感想を聞いていみたい。

長時間預かりを始めたことによって幼稚園の人数が増えていきそうな見込みはあるか。

事務局　サービスとしては、預り時間が増えたということで利用者は喜んでいるが、これにより園児数が増になったという状況にはなっていない。

長時間預りを実施していることを知らない保護者がたくさんいる中で、周知が不足しているという意見はいただいているが、一方で、幼稚園では夏季休業期間中の給食がない、土曜日の預かりがないという保育所との大きな違いがある。

委員　私は、高浜幼稚園の預かりに出ているが、３歳になったところで保育園から幼稚園に変わった子どもが何人かおり、令和６年度７名だったのが１４名になっている。高浜幼稚園の園児数は少ないが、従事していて「幼稚園に入園させたかった」という母親が来られる。また、幼稚園では園長のブログやホームページの更新にも取り組んでおられ、良いと感じている。

委員　認定こども園は、基本的には０歳児から入所するということになるので、幼稚園を認定こども園化するには、０～２歳児を受け入れできる基準に変えていかなければならない。

保育士の職員配置が必要になるほか、施設整備の面でも０～２歳児への給食の提供には自園調理が原則という制度である。その他の保育環境の整備においても多数の規制があるため、既存の幼稚園をかなり改造しなければならないということを踏まえれば、一時預かりが増えていくからといって、直ちに幼稚園が認定こども園になりやすいということにはならないと考えている。

委員　幼稚園でも保護者は仕事を持っておられて家庭にいる方はほとんどいない。幼稚園の

入園状況を見て心苦しく感じている。

「好ましい園児数」という考え方があるとは思うが、保護者の中には、我が子の成長が緩やかなので、小規模の集団で保育してもらいたいという方がおられるし、中央幼稚園では何十年も前から障がいのある子どもの保育を受け入れ、職員が研修を積みながら一人ひとりの子どもに合った保育・教育に努めてきたところである。

また、外国籍の子どもを集団の中で育てていくことは難しい面もあり、これに対しても職員が工夫しながら取り組んできているということを知ってもらったうえで、出雲市に生まれた子ども一人ひとりの成長や発達を支えていくという点から市立幼稚園のあり方について検討していただきたい。

（３）令和７年度の認可保育所等の定員について
（４）令和７年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について
（５）令和７年度の放課後児童クラブの入会状況等について
（６）こどもの意見の施策反映に係るワーキンググループ設置について

質疑なし